

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-35716

(P2010-35716A)

(43) 公開日 平成22年2月18日(2010.2.18)

(51) Int.Cl.
A63F 7/02 (2006.01)F 1
A63F 7/02 310Cテーマコード (参考)
2C088

審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号 特願2008-200092 (P2008-200092)
(22) 出願日 平成20年8月1日(2008.8.1)(71) 出願人 000161806
京楽産業、株式会社
愛知県名古屋市中区錦三丁目24番4号
(74) 代理人 100085660
弁理士 鈴木 均
(72) 発明者 泉 邦秋
愛知県名古屋市中区錦三丁目24番4号
京楽産業、株式会社
内
Fターム(参考) 2C088 DA07 DA13 EA02 EA23 EA33
EB78

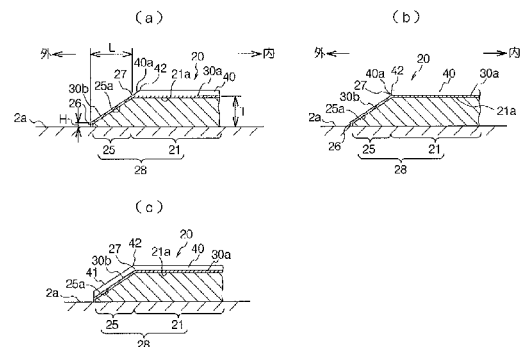
(54) 【発明の名称】 台板及び盤面部品

(57) 【要約】

【課題】盤面部品を遊技盤面に取り付けるための台板の端縁に設けた鈍角状の角部を被覆する装飾薄膜が、繰り返し衝突する遊技球によって損耗して外観を悪化させることを防止すると共に、前記角部の存在によって生じる台板状面と外周のテーパ面との間の濃淡、色合いの変化を維持することができる台板を提供する。

【解決手段】表面の少なくとも一部が略平坦な台板基部21と、台板基部の周縁の少なくとも一部に連設されて外周方向へ下り傾斜するテーパ部25と、台板基部及びテーパ部の各表面に形成された装飾薄膜30と、を備え、台板基部表面の少なくとも一部、又はノ及び、テーパ部表面の少なくとも一部に、台板基部とテーパ部との境界線に沿って形成された角部27を保護する透明保護部材40を配置し、透明保護部材は、テーパ部の外周端縁を越えて遊技盤面上に延長形成されていない。

【選択図】 図3



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

パチンコ遊技機の遊技盤面に固定される盤面部品取付け用の台板であって、

表面の少なくとも一部が略平坦な台板基部と、該台板基部の周縁の少なくとも一部に連設されて外周方向へ下り傾斜するテーパ部と、前記台板基部及び前記テーパ部の各表面に形成された装飾薄膜と、前記装飾薄膜上に積層される透明保護部材と、を備え、

前記透明保護部材は、前記台板基部表面の少なくとも一部、又はノ及び、前記テーパ部表面の少なくとも一部に積層されて、前記台板基部と前記テーパ部との境界線に沿って形成された角部を保護し、且つ前記テーパ部の外周端縁を越えて前記遊技盤面上に延長形成されていないことを特徴とする台板。

10

【請求項 2】

前記台板基部の表面は、前記角部から内側へ下り傾斜する内側テーパ面と、該内側テーパ面の終端縁から内側方向へ延びる略平坦面と、から構成されており、

前記透明保護部材を、前記テーパ部表面の装飾薄膜の少なくとも一部、又はノ及び、前記台板基部表面の装飾薄膜の少なくとも一部に積層一体化したことを特徴とする請求項 1 に記載の台板。

【請求項 3】

透明保護部材を、前記段差部表面の装飾薄膜の少なくとも一部に積層一体化したことを特徴とする請求項 1 に記載の台板。

【請求項 4】

前記テーパ部上の透明保護部材は、外周方向へ下り傾斜する透明テーパ面をなすことを特徴とする請求項 1 乃至 3 の何れか一項に記載の台板。

20

【請求項 5】

少なくとも前記角部を被覆する前記透明保護部材の外面を曲面状にしたことを特徴とする請求項 1 乃至 4 の何れか一項に記載の台板。

【請求項 6】

請求項 1 乃至 5 の何れか一項に記載の台板を備えたことを特徴とする盤面部品。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

30

本発明は盤面部品を遊技盤面に取り付けるための台板の改良に関し、特に遊技盤面から突出した台板の端縁が繰り返し衝突する遊技球によって損耗して外観を悪化させることを防止する構成を備えた台板、及び盤面部品に関する。

【背景技術】

【0002】

パチンコ遊技機においては、遊技盤の遊技領域内に遊技釘、入賞口、風車、図柄表示装置、電飾装置等の各種盤面部品を設けて遊技内容の多様性を図っている。盤面部品は、台板に搭載された状態で、この台板を遊技盤面にネジ止めすることにより盤面に取り付けられる。

図 6 は台板 100 を遊技盤面 110 に設置した状態を示す断面図であり、台板 100 は、厚さ 2 mm 程度の樹脂板から成る心材（例えば、黒色）101 の表面に、金属膜等から成る装飾薄膜（例えば、金色）102 をメッキ、塗装等の手法によって被覆形成した構成を備えている。また、台板 100 の外周縁 103 は、遊技球が当たったときのダメージや、遊技球の経路に与える影響を低減するために、外周方向へ向かってテーパ状に傾斜（肉厚が漸減）したテーパ面となっている。また、台板を正面から視認した際に台板上面とテーパ面との間の角度差に起因して各面の濃淡、色合いに変化がもたらされるため、遊技者の興味を高めることができる。

40

【0003】

ところで、発射装置から毎分 100 個程度発射されて遊技領域に進入する遊技球が遊技領域内を流下する過程で台板 100 の外周縁に繰り返し衝突すると、台板上面と外周のテ

50

ーパー面との境界線（鈍角状の角部）１０５を被覆する装飾薄膜１０２が損耗、破損して黒色の心材１０１の一部が露出し、外観を悪化させる要因となる。

このような不具合は、遊技球が通過する過程で衝突する頻度が高い台板の局部に発生し易く、また稼働率の高い人気機種において特に発生し易い。

このような不具合に対処するために台板上面と、その外周のテーパー面との間の鈍角状の境界線（稜線）を湾曲面状に面取りしてエッジをなくし、遊技球が衝突したときのダメージを低減することも考えられる。しかし、台板の設計者は、台板上面とテーパー面との間の境界線に鈍角状の稜線を設けることによって、台板を正面から視認した際に各面における光の反射方向を異ならせて、各面の見かけ上の濃淡や色が異なって認識されるデザイン効果を狙っているため、稜線をＲ状に加工することは回避したい傾向にある。

10

【０００４】

特許文献１（特開平０５－１６８７４７号公報）には、台板の心材を強度の高い低発泡合成樹脂により構成する旨が開示されているが、心材表面に形成される装飾薄膜を衝突する遊技球から保護する構成については一切言及されていない。

特許文献２（特開２００５－０１３５８９公報）にも台板の強度を高めるための構成が開示されているが、装飾薄膜を衝突する遊技球から保護する構成については一切言及されていない。

【特許文献１】特開平０５－１６８７４７号公報

【特許文献２】特開２００５－０１３５８９公報

【発明の開示】

20

【発明が解決しようとする課題】

【０００５】

以上のように従来のパチンコ遊技機の遊技盤面に取り付けられる台板にあっては、その外周縁に沿って鈍角状の角部（稜線）を設ける必要があるため、この角部に遊技球が当たった時に装飾薄膜が損耗、破損して見栄えのよくない心材が露出して外観を悪化させるという問題があった。

本発明は上記に鑑みてなされたものであり、盤面部品を遊技盤面に取り付けるための台板の端縁に設けた鈍角状の角部を被覆する装飾薄膜が、繰り返し衝突する遊技球によって損耗して外観を悪化させることを防止すると共に、前記角部の存在によって生じる台板表面と外周のテーパー面との間の見かけ上の濃淡、色合いの変化を維持することができる台板及び盤面部品を提供することを目的としている。

30

【課題を解決するための手段】

【０００６】

上記目的を達成するため、請求項１の発明に係る台板は、パチンコ遊技機の遊技盤面に固定される盤面部品取付け用の台板であって、表面の少なくとも一部が略平坦な台板基部と、該台板基部の周縁の少なくとも一部に連設されて外周方向へ下り傾斜するテーパー部と、前記台板基部及び前記テーパー部の各表面に形成された装飾薄膜と、前記装飾薄膜上に積層される透明保護部材と、を備え、前記透明保護部材は、前記台板基部表面の少なくとも一部、又は／及び、前記テーパー部表面の少なくとも一部に積層されて、前記台板基部と前記テーパー部との境界線に沿って形成された角部を保護し、且つ前記テーパー部の外周端縁を越えて前記遊技盤面上に延長形成されていないことを特徴とする。

40

盤面部品を遊技盤面に固定する際には、台板を介した取付けが行われる。台板を構成する台板基部は遊技球の進路に与える影響を少なくするために薄肉化され、且つその外周縁はテーパー状に厚みが漸減するように薄肉化されているが、台板基部とテーパー部との境界線の角部（鈍角状の稜線）に遊技球が繰り返し衝突した場合には当該角部、及びその周辺に被覆された装飾薄膜が損耗、破損して台板の基材が露出して外観を悪化させる。本発明では、角部に遊技球が直撃することを防止するための手段として透明保護部材を台板基部、又は／及びテーパー部に沿った適所に配置している。透明保護部材は台板基部とテーパー部の外観をそのまま視認できる透明材料から構成されているため、デザイン上の効果（角度が異なる両面からの反射光による見かけ上の美的効果）を喪失することもない。

50

テーパー部に積層される透明保護部材は、テーパー部の外周縁を越えて遊技盤面上に張出し形成される場合においても、台板の本来の設置位置を越えることがないように構成される。

積層とは、台板本体と透明保護部材とを一体成形する場合の他に、別部材としての透明保護部材を台板本体に積層してネジ止め、接着等により固定する場合も含むものである。

【0007】

請求項2の発明は、請求項1において、前記台板基部の表面は、前記角部から内側へ下り傾斜する内側テーパー面と、該内側テーパー面の終端縁から内側方向へ延びる略平坦面と、から構成されており、前記透明保護部材を、前記テーパー部表面の装飾薄膜の少なくとも一部、又はノ及び、前記台板基部表面の装飾薄膜の少なくとも一部に積層一体化したことを特徴とする。

10

台板基部を部分的に薄肉化した分だけ、透明保護部材の肉厚を増大させることができるため、透明保護部材の強度アップを図り、台板基部に対する保護が確実化する。

請求項3の発明は、請求項1において、前記台板基部の表面は、前記角部から内側方向へ階段状に延びる段差部を有し、前記透明保護部材を、前記段差部表面の装飾薄膜の少なくとも一部に積層一体化したことを特徴とする。

台板基部を部分的に薄肉化した分だけ、透明保護部材の肉厚を増大させることができるため、透明保護部材の強度アップを図り、台板基部に対する保護が確実化する。

積層一体化とは、段差部と透明保護部材とを一体成形する場合の他に、別部材としての透明保護部材を台板本体に積層してネジ止め、接着等により固定する場合も含むものである。

20

【0008】

請求項4の発明は、請求項1乃至3の何れか一項において、前記テーパー部上の透明保護部材は、外周方向へ下り傾斜する透明テーパー面をなすことを特徴とする。

テーパー部の傾斜角度は、遊技球からの衝撃に対する耐久性を計算して設計されているため、透明保護部材の傾斜角度を同様に設定することにより強度アップを図ることができる。透明保護部材は台板基部と、テーパー部との間の角部に遊技球が直撃、接触することを防止する手段であるため、テーパー部の前面だけを被覆するように構成しても上記効果を発揮させることができる。

請求項5の発明は、請求項1乃至4の何れか一項において、少なくとも前記角部を被覆する前記透明保護部材の外周を曲面状にしたことを特徴とする。

30

透明保護部材が遊技球から受けるダメージを更に低減するためには、その表面を曲面状に構成するのが有効である。

請求項6の発明に係る盤面部品は、請求項1乃至5の何れか一項に記載の台板を備えたことを特徴とする。

本発明に係る台板は、センター役物、その他の各種盤面部品を遊技盤面に取り付ける際に使用される部材であり、本発明に係る台板を備えた盤面部品は全て本発明の技術的範囲に属するものである。

【発明の効果】

【0009】

40

以上のように本発明によれば、略平坦な表面を有する台板基部と、該台板基部の周縁の少なくとも一部に連設されて外周方向へ下り傾斜するテーパー部と、台板基部及びテーパー部の各表面に形成された装飾薄膜と、を備え、テーパー部表面の少なくとも一部、又はノ及び、台板基部の表面の少なくとも一部に、台板基部とテーパー部との境界線に沿って形成された角部を保護する透明保護部材を配置した。更に、透明保護部材は、テーパー部の外周端縁を越えて遊技盤面上に延長形成されないように構成した。このため、台板の端縁に沿って設けた鈍角状の角部を被覆する装飾薄膜が、繰り返し衝突する遊技球によって損耗して外観を悪化させることを防止すると共に、角部の存在によって生じる台板状面と外周のテーパー面との間の見かけ上の濃淡、色合いの変化を維持することができる。

【発明を実施するための最良の形態】

50

【 0 0 1 0 】

以下、本発明に係る台板を図面に示した実施の形態により詳細に説明する。

図 1 は本発明に係るパチンコ遊技機の遊技盤の一例を示す正面図であり、図 2 (a) 及び (b) は本発明の台板、及び盤面部品 (センター役物) の正面図、及びこの盤面部品を搭載する台板の斜視図である。

この図に示すパチンコ遊技機 1 は、図示しない矩形形状の枠の窓孔に対して裏側から装着される遊技盤 2 を備えている。

いる。ガイドレールは発射装置から発射された遊技球を遊技領域の上部に案内したり、アウト球を回収するアウト口 1 5 に案内したりする外レール R 1 及び内レール R 2 により構成される。

遊技盤 2 の前面側には、図示しないガラス枠が開閉可能に取り付けられている。また遊技盤 2 の下部には遊技球を貯留する図示しない受け皿部と、受け皿部内の遊技球を発射する図示しない発射レバー等が設けられている。また、受け皿部の上部には、例えば遊技演出用のチャンスボタンや十字キーなどの操作部や、遊技球の購入ボタンや購入取り消しボタンなどが設けられている。

【 0 0 1 1 】

遊技盤 2 の略中央に設けた開口部内にはセンター役物 3 が配置され、センター役物 3 の内部開口内には画像表示装置 5 が配置されている。画像表示装置 5 は、例えば、液晶表示装置等の液晶表示パネルによって構成され、通常動作状態の時は図示しない特別図柄画像が表示される。また、所謂リーチ状態や特別遊技状態の時はそれぞれの遊技状態であることを示す演出画像等が表示される。

画像表示装置 5 の下方には、画像表示装置 5 の特別図柄を可変表示させるための可変入賞装置 6 が設けられている。

また、画像表示装置 5 の左側には、遊技盤 2 の右下部に配置された普通図柄表示装置 1 0 に表示される普通図柄を作動させるためのゲート 1 1 が設けられている。

さらに、可変入賞装置 6 の下方には、特別遊技状態の一つである大当たり状態のときに開成状態になる開閉扉を有する大入賞口 7 が設けられている。

可変入賞装置 6 は、画像表示装置 5 を可変表示させるための上始動ポケット 6 a と、左右一对の開閉爪 (可動片) を有する電動式チューリップ 6 b とを備えている。

また遊技盤 2 には、普通入賞口 8 が設けられていると共に、風車 9 や多数の遊技釘が突設されている。遊技釘は、遊技球の落下速度を遅くすると共に、落下方向を複雑に変化させて遊技進行上の興味を高めている。

【 0 0 1 2 】

普通図柄表示装置 1 0 に表示される普通図柄は、1 個または複数個の図柄を変動表示可能であり、普通図柄始動口としてのゲート 1 1 が遊技球を検出することを条件に、その図柄が乱数制御等により所定時間可変して停止するようになっている。

普通図柄としては、数字図柄、アルファベット図柄、キャラクター図柄、その他の適宜の遊技図柄が使用される。そして、ゲート 1 1 を遊技球が通過したことを条件に乱数制御により普通図柄が所定態様となった場合に、可変入賞装置 6 に設けられた電動式チューリップから成る可動片を所定時間、開成動作するように構成されている。

画像表示装置 5 に表示される特別図柄は、停止図柄が予め定められた図柄の組合せ、例えば同一図柄の組合せとなった場合に大当たり状態となるように構成されている。また特別図柄は、可変入賞装置 6 の上始動ポケット 6 a、又は電動式チューリップ 6 b の開成動作により遊技球が誘導される下始動口 (図示していない) への遊技球の入賞を検出することを条件に乱数制御等により表示がスクロールする等、所定の変動パターンで所定時間変動 (可変) して図柄で停止するようになっている。

その際、有効ライン上に 2 個の停止図柄が同一となった場合に、リーチ状態が発生し、このリーチ状態において、有効ライン上の最後の停止図柄が既に停止している 2 個の図柄と同一となった場合に大当たり状態が発生する。なお、特別図柄としては、数字図柄、アルファベット図柄、キャラクター図柄等が使用可能である。

10

20

30

40

50

【 0 0 1 3 】

図 2 (a) に示したセンター役物 3 は、同図 (b) に示した台板 2 0 に組み付けられた状態で、台板を遊技盤面にネジ止め固定することにより遊技盤面に固定される。

図 1 中に示された構成例では、センター役物 3 の左下側にある台板 2 0 の部位 A が遊技球が衝突する頻度が高く、最も損耗し易い領域である。

図 3 (a) 及び (b) は本発明の一実施形態に係る台板の要部断面図であり、この台板 2 0 は、略平坦な表面 (上面) 2 1 a を有する台板基部 2 1 と、台板基部の周縁の少なくとも一部に連設されて外周方向へ下り傾斜するテーパー部 (外周薄肉部) 2 5 と、台板基部 2 1 及びテーパー部 2 5 の各表面 2 1 a 、 2 5 a に夫々形成された装飾用の被膜、又は塗膜から成る装飾薄膜 3 0 (3 0 a 、 3 0 b) と、装飾薄膜 3 0 上の適所に積層された透明保護部材 4 0 と、を備えている。装飾被膜 3 0 は、金、銀、その他の光反射性を有した材料から構成される。

また、テーパー部 2 5 の先端縁は遊技盤面 2 a に対して垂直に切り立った立ち上げ面 2 6 となっている。台板基部 2 1 とテーパー部 2 5 は、台板本体 2 8 を構成している。

【 0 0 1 4 】

台板 2 0 は、遊技盤面上を流下する遊技球に対する影響を最小限に抑えると共に、遊技球が端縁に衝突した際のダメージを最小限に抑えるために、台板基部 2 1 の厚さ T は約 2 ~ 3 mm に設定され、テーパー部 2 5 の長さ L は約 3 mm 、立ち上げ面 2 6 の高さ H は約 0 . 5 mm に設定されている。なお、遊技盤面 2 a から図示しない前面のガラス板までの距離は約 20 mm であり、遊技球の直径は 1 1 mm であるため、装飾薄膜 3 0 を含めた台板 2 0 の表面とガラス板との間には約 1 7 ~ 1 8 mm の遊技球通過スペースが確保される。

台板基部 2 1 とテーパー部 2 5 との境界には鈍角状 (非曲面状) の角部 2 7 が形成されている。角部 2 7 を湾曲面状に面取りすることによりデザイン上のデメリットが発生することは前述の如くであり、本発明では、角部 2 7 の存在によるデザイン上の効果を維持しながらも、角部に遊技球が直撃して装飾薄膜を損耗させる不具合を解消するための方策を提供する。

即ち、本発明の台板 2 0 の特徴的な構成は、台板基部 2 1 表面の装飾被膜 3 0 a の少なくとも一部、又は / 及び、テーパー部 2 5 表面の装飾被膜 3 0 b の少なくとも一部に、台板基部とテーパー部との境界線に沿って形成された角部 2 7 を保護する透明保護部材 4 0 を配置することにより、角部 2 7 、及びその周辺の装飾薄膜 3 0 に対して遊技球が直撃することを防止した構成にある。

更に、透明保護部材 4 0 は、テーパー部 2 5 の外周端縁を越えて遊技盤面 2 a 上に延長形成されていないため、台板本体 2 8 からの光の反射による装飾効果を広い範囲 (台板外周縁の本来の配置位置) に亘って得ることができる。

【 0 0 1 5 】

図 3 (a) の実施形態に係る台板 2 0 は、台板基部 2 1 表面の装飾薄膜 3 0 a 上に透明保護部材 4 0 を被覆 (積層) 一体化することにより、遊技盤面を流下してきた遊技球が角部 2 7 に接触することを防止している。

本例では、透明保護部材 4 0 は、角部 2 7 を始端部として台板基部 2 1 の内側 (図面右方向) へ延びているため、角部 2 7 に衝突した遊技球からの打撃力は透明保護部材 4 0 の前端面 4 0 a により緩和され、角部直撃によるダメージを大幅に低減することができる。透明保護部材の前端面 4 0 a はテーパー部 2 5 の表面 2 5 a と連続したテーパー面となっているが、これは一例に過ぎず、テーパー部の表面 2 5 a と非平行なテーパー面としてもよいし、図 3 (b) のように前端面 4 0 a を垂直面 (遊技盤面と直交する面) としてもよい。

透明保護部材 4 0 としては、耐久性に優れた透明樹脂であれば、どのような材料であってもよいが、例えばポリカーボネイトを例示することができる。また、透明保護部材 4 0 の硬度は、台板本体 2 8 の硬度とほぼ同等に設定する。

透明材料から成る透明保護部材 4 0 により台板基部表面を被覆しているため、台板基部

とテーパー部の各表面 2 1 a、2 5 a (3 0 a、3 0 b) との間の光の反射方向の変化による見かけ上の濃淡、色合いの違いを維持することができ、デザイン上のメリットを発揮できる。

【 0 0 1 6 】

また、図 3 (c) に示すように台板基部 2 1 表面の装飾薄膜 3 0 a 上の透明保護部材 4 0 の前端縁からテーパー部 2 5 表面の装飾薄膜 3 0 b 上にかけて透明保護部材 4 1 を連続形成するように構成してもよい。このように構成すれば、角部 2 7 に対する保護が更に確実化する。

透明保護部材 4 1 がテーパー部 2 5 を被覆する範囲は角部 2 7 から斜めに傾斜するテーパー面の少なくとも上部であればよく、必ずしもテーパー部の下部にまで達する必要はない。

10

本実施形態では、テーパー部 2 5 上の透明保護部材 4 1 は、テーパー部 2 5 の表面と同様に外周方向へ下り傾斜する透明テーパー面をなしている。透明保護部材 4 1 の透明テーパー面をテーパー部 2 5 の前面と平行にすることにより、遊技球が突き当たった際のダメージを最小に抑えることができる。

台板基部 2 1 及びテーパー部 2 5 を夫々被覆する装飾薄膜 3 0 a、3 0 b を透明保護部材 4 0、4 1 により被覆しているため、前方から視認した場合の見え方は、透明保護部材 4 0、4 1 が存在しない場合と全く変わりが無い。従って台板基部とテーパー部の各表面 2 1 a、2 5 a (3 0 a、3 0 b) との間の光の反射方向の変化による濃淡、色合いの違いを維持することができ、デザイン上のメリットを発揮できる。

20

【 0 0 1 7 】

図 3 (c) の実施形態では、透明保護部材 4 0、4 1 の境界に鈍角状の角部 4 2 を設けており、この部位は台板本体 2 8 側の対応する部位と整合した形状としているため、遊技球の衝突によるダメージを低減できるが、透明保護部材の角部 4 2 を曲面状に面取りしたり、透明保護部材 4 1 の前面を湾曲状に加工する等の手法により遊技球によるダメージを更に低減するようにしてもよい。

また、透明保護部材 4 0、4 1 を台板本体 2 8 に固定する方法としては、両者を予め一体成形したり、透明な接着剤により接着したり、両者の接触面は固定せずに、他の部位をネジにより共締めする等の方法が考えられる。従って、本明細書において積層一体化、或いは被覆一体化とは、台板本体と透明保護部材を一体成形する場合の他に、別部材としての透明保護部材を台板本体に積層してネジ止め、接着等により固定する場合も含むものである。

30

【 0 0 1 8 】

次に、図 4 (a) 及び (b) は夫々本発明の他の実施形態に係る台板の構成を示す縦断面図である。

図 4 (a) の台板 2 0 では、台板基部 2 1 の表面 2 1 a が、角部 2 7 から内側へ下り傾斜する内側テーパー面 2 1 a - 1 と、内側テーパー面の終端縁から内側方向へ延びる略平坦面 2 1 a - 2 とから構成されている。また、内側テーパー面 2 1 a - 1 と、略平坦面 2 1 a - 2 の少なくとも一部に透明保護部材 4 3 を積層一体化した構成を備えている。

図 4 (a) の透明保護部材 4 3 は、台板本体 2 8 の角部 2 7 を始端として台板基部表面 2 1 a の装飾薄膜 3 0 a 上面を被覆しており、透明保護部材 4 3 の厚さは角部 2 7 よりも上方へ突出するように厚肉に構成されている。透明保護部材 4 3 の前面 4 3 a は図示のように遊技盤面 2 a と直交する面であってもよいし、内側 (図面右側) ヘテーパー状に傾斜する面、或いは湾曲面であってもよい。更に、透明保護部材 4 3 の上面が鎖線で示すように角部 2 7 と同等の高さ位置となるように薄肉化してもよい。

40

いずれの構成においても、遊技球が角部 2 7 を直撃することが防止されるため、角部 2 7、或いはその周辺に被覆された装飾薄膜が確実に保護されることとなる。

透明保護部材 4 3 は、装飾薄膜 3 0 a 上に均一厚で被覆することが好ましく、遊技盤の前方に位置するガラス板との間に十分な遊技球通過スペースを確保できるようにその膜厚を設定する。

50

【 0 0 1 9 】

次に、図 4 (b) は図 4 (a) の変形例であり、台板基部表面 2 1 a 上の透明保護部材 4 3 の前端縁からテーパー部 2 5 の表面 2 5 a に向けて透明保護部材 4 4 を延長形成した構成が特徴的である。図 4 (a) に示した透明保護部材 4 3 に加えて、テーパー部 2 5 を被覆する透明保護部材 4 4 を付加したことにより、角部 2 7 上の装飾薄膜を透明保護部材により完全被覆することができ、角部 2 7 に対して遊技球が直接接触して装飾薄膜を損耗させることを防止することができる。透明保護部材 4 3 、 4 4 としては、例えばポリカーボネイトを用いる。

台板基部表面 2 1 a 及びテーパー部表面 2 5 a を夫々被覆する装飾薄膜 3 0 a 、 3 0 b を透明保護部材 4 3 、 4 4 により被覆しているため、前方から視認した場合の各面の見え方は、透明保護部材が存在しない場合と全く変わりが無い。従って台板基部とテーパー部の各表面 2 1 a 、 2 5 a との間の反射光の変化による見かけ上の濃淡、色合いの違いを維持することができ、デザイン上のメリットを発揮できる。

図 4 (b) の実施形態では、透明保護部材 4 3 、 及び 4 4 の外面形状を、台板基部 2 1 及びテーパー部 2 5 の各形状と整合した形状としているため遊技球の衝突によるダメージを低減できるが、両透明保護部材の境界に位置する角部 4 5 を曲面状に面取りしたり、透明保護部材 4 4 の表面を曲面状に構成して遊技球によるダメージを更に低減するようにしてもよい。

【 0 0 2 0 】

次に、図 5 (a) (b) (c) 及び (d) は本発明の他の実施形態に係る台板の構成を示す断面図である。

本実施形態に係る台板 2 0 は、台板基部 2 1 の表面 2 1 a が、テーパー部 2 5 との境界にある角部 2 7 から内側方向へ階段状に延びる段差部 5 0 を有している構成が特徴的である。また、透明保護部材 4 6 を、段差部表面の装飾薄膜 3 0 c の少なくとも一部の表面に積層一体化することにより、角部 2 7 に対して遊技球が直撃した際のダメージを減殺するように構成している。この例に係る階段状の段差部 5 0 は、遊技盤面 2 a と平行な第 1 の平坦面 5 0 a と、第 1 の平坦面 5 0 a から垂下 (或いはテーパー状の下降) した壁面 5 0 b と、壁面 5 0 b から遊技盤面と平行に延びた第 2 の平坦面 5 0 c とから構成されている。

本実施形態の透明保護部材 4 6 の前面 4 6 a は、テーパー部 2 5 の前面と連続したテーパー面を形成しているが曲面状に構成してもよいし、角部 4 6 b を曲面状に構成して遊技球が衝突したときのダメージを低減するように構成してもよい。

【 0 0 2 1 】

図 5 (b) は (a) の変形例であり、透明保護部材 4 6 の前部をテーパー部 2 5 の表面 2 5 a 上にまで延長形成した透明保護部材 4 7 を設けた構成が特徴的である。

本実施形態の透明保護部材 4 7 の前面 4 7 a は、曲面状に構成してもよいし、角部 4 7 b を曲面状に構成して遊技球が衝突したときのダメージを低減するように構成してもよい。

図 5 (c) の実施形態に係る台板 2 0 を構成する段差部 5 0 は、第 1 の平坦面 5 0 a に続く壁面 5 0 b が上向きに延びており、第 2 の平坦面 5 0 c は壁面 5 0 b の上端部から延びている。

この実施形態においても、台板基部 2 1 及びテーパー部 2 5 を夫々被覆する透明保護部材 4 6 、 4 7 は、遊技球が段差部を被覆する装飾薄膜 3 0 c を直撃することによるダメージを緩和することができる。また、透明保護部材 4 7 の前面 4 7 a は曲面状に構成してもよいし、角部 4 7 b を曲面状に構成して遊技球が衝突したときのダメージを低減するように構成してもよい。

また、破線で示すように第 1 の平坦面 5 0 a と壁面 5 0 b とにより形成される三角形の空間内のみに透明保護部材を配置することによって段差部 5 0 に含まれる角部を保護するように構成してもよい。

【 0 0 2 2 】

図 5 (d) の実施形態に係る台板 2 0 を構成する段差部 5 0 は、第 1 の平坦面 5 0 a に続く壁面 5 0 b が斜め上向きに延びており、第 2 の平坦面 5 0 c は壁面 5 0 b の上端部から延びている。透明保護部材 4 8 は、第 1 の平坦面 5 0 a と壁面 5 0 b とによって形成される空間内を満たすように配置してもよいし、破線で示すように台板基部 2 1 表面、及びテーパー部 2 5 表面を覆う装飾被膜 3 0 a、3 0 b を被覆するように配置してもよい。

テーパー部 2 5 の外周端縁は台板本体の外周縁の本来の設置位置にあるため、台板本体 2 8 の各面 2 1 a、2 5 a からの光の反射による装飾効果を広い範囲に亘って得ることができる。

以上のように本発明によれば、透明保護部材を、台板基部表面の少なくとも一部、又は / 及び、テーパー部表面の少なくとも一部に配置し、透明保護部材は、テーパー部の外周端縁を越えて遊技盤面上に延長形成されないように構成している。このため、台板基部とテーパー部との境界の角部 (鈍角状の稜線) に遊技球が繰り返し衝突して装飾薄膜が損耗、破損して台板の基材が露出し、外観を悪化させる不具合を防止することができる。

【 0 0 2 3 】

透明保護部材は台板基部とテーパー部の外観をそのまま視認できる透明材料から構成されているため、デザイン上の効果 (見かけ上の美的効果) を喪失することもない。

透明保護部材は台板基部と、テーパー部との間の角部に遊技球が直撃、接触することを防止する手段であるため、テーパー部の前面だけを被覆するように構成しても上記効果を発揮させることができる。

透明保護部材の設置範囲を、テーパー部のみならず、台板基部の表面にまで拡張することにより、台板本体の角部に対する保護を厚くすることができる。

従来の台板に設けられているテーパー部は遊技球が衝突した際のダメージを最小限に抑えるようにその寸法、傾斜角度が適切に設定されているため、このテーパー部を被覆する透明保護部材の外面形状を同様に設定することにより、透明保護部材が遊技球から受けるダメージを減少することができる。

透明保護部材が遊技球から受けるダメージを更に低減するためには、その表面を曲面状に構成するのが有効である。

本発明に係る台板は、センター役物、その他の各種盤面部品を遊技盤面に取り付ける際に使用される部材であり、本発明に係る台板を備えた盤面部品は全て本発明の技術的範囲に属するものである。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 2 4 】

【 図 1 】 本発明に係るパチンコ遊技機の遊技盤の一例を示す正面図である。

【 図 2 】 (a) 及び (b) は本発明の台板、及び盤面部品 (センター役物) の正面図、及びこの盤面部品を搭載する台板の斜視図である。

【 図 3 】 (a) (b) 及び (c) は本発明の一実施形態に係る台板の要部断面図である。

【 図 4 】 (a) 及び (b) は本発明の他の実施形態に係る台板の構成を示す要部断面図である。

【 図 5 】 (a) 乃至 (d) は本発明の他の実施形態に係る台板の構成を示す要部断面図である。

【 図 6 】 従来例の説明図である。

【 符号の説明 】

【 0 0 2 5 】

1 ... パチンコ遊技機、2 ... 遊技盤、2 a ... 遊技盤面、3 ... センター役物、5 ... 画像表示装置、6 ... 可変入賞装置、6 a ... 上始動ポケット、6 b ... 電動式チューリップ、7 ... 大入賞口、8 ... 普通入賞口、9 ... 風車、1 0 ... 普通図柄表示装置、1 1 ... ゲート、1 5 ... アウト口、2 0 ... 台板、2 1 ... 台板基部、2 1 a ... 表面、2 5 ... テーパー部、2 5 a ... 表面、2 7 ... 角部、2 8 ... 台板本体、3 0 ... 装飾薄膜、3 0 a ... 装飾薄膜、3 0 b ... 装飾薄膜、3 0 b ... 装飾薄膜、4 0、4 1、4 3、4 4、4 6、4 7、4 8 ... 透明保護部材、5 0 ... 段差部、5 0 a ... 第 1 の平坦面、5 0 b ... 壁面、5 0 c ... 第 2 の平坦面

10

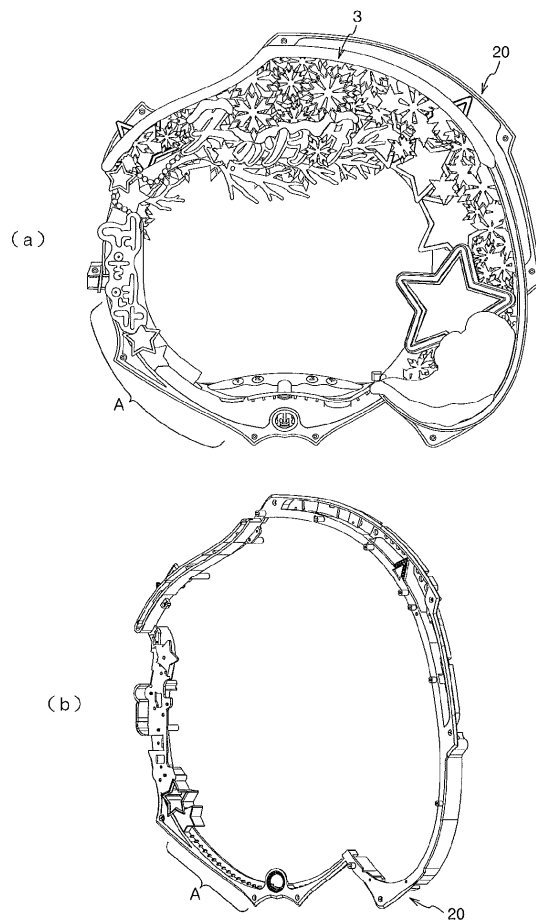
20

30

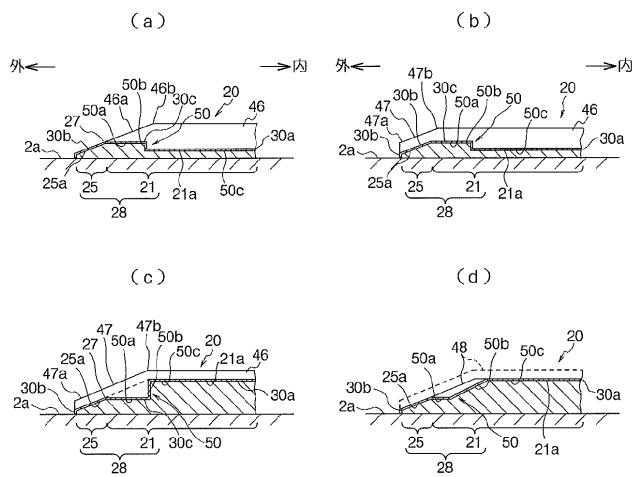
40

50

【 図 2 】



【 図 5 】



【 図 6 】

